

## 目次等

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学学会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00033377">http://hdl.handle.net/10470/00033377</a>

## ■総説 遺伝医学アップデート：基礎医学から臨床現場まで

(1) 線虫のゲノム解析について…………… 三谷昌平… 1- 6

## ■報告

糖尿病性ケトアシドーシス治療中に発症した

プロポフォール誘発性の急性膵炎の1例…………… 松下真也・石川淳哉・

佐藤暢夫・吉田拓生・木内直人・吉田拓也・

幸野真樹・星野あつみ・中川雅史・清野雄介・野村岳志… 7- 12

## ■第88回東京女子医科大学学会総会

公開シンポジウム「災害に強い医科大学を歩む」

序文…………… 矢口有乃… 13- 14

災害に対する本院の取り組み

—病院防災・減災対策支援室発足からの歩み—…………… 武田宗和・矢口有乃… 15- 22

地域災害拠点中核施設としての足立医療センターの備え…………… 庄古知久・

小島光暁・中本礼良・栗山桂一・

谷澤 秀・持田 弦・岩崎 恵・小川真悠… 23- 29

本学校法人としての取り組み…………… 加藤多津子… 30- 34

災害医療に対する東京都医師会の取り組みと今後…………… 新井 悟・

猪口正孝・市川菊乃・尾崎治夫… 35- 39

## ■学会・研究会抄録

第367回東京女子医科大学学会例会（2023年2月25日）…………… 40- 48

# JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 93 Number 1 February 25, 2023

---

## Review: Genetic Medicine Update: From Basic Research to Clinical Care

(1) *Caenorhabditis elegans* Genome Analysis

Shohei Mitani ..... 1-6

## Report

A Case of Propofol-Induced Acute Pancreatitis During Diabetic Ketoacidosis Treatment

Shinya Matsushita, Junya Ishikawa, Nobuo Sato, Takuo Yoshida,

Naoto Kiuchi, Takuya Yoshida, Masaki Kouno, Atsumi Hoshino,

Masashi Nakagawa, Yusuke Seino, Takeshi Nomura. .... 7-12

## The 88th Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University's Symposium on "Building Disaster Resilience"

Preface for Building Disaster Resilience

Arino Yaguchi ..... 13-14

Initiatives Toward Disaster at Tokyo Women's Medical University Hospital

Munekazu Takeda, Arino Yaguchi. .... 15-22

Disaster Preparation at Tokyo Women's Medical University Adachi Medical Center  
as the Disaster Base Core Hospital

Tomohisa Shoko, Mitsuaki Kojima, Raira Nakamoto, Keiichi Kuriyama,

Shu Tanizawa, Yuzuru Mochida, Megumi Iwasaki, Mayu Ogawa ..... 23-29

Our Efforts as a Medical Institute

Tatsuko Kato ..... 30-34

Preparing for Future Disasters: Tokyo Medical Association Disaster Medicine Responses

Satoru Arai, Masataka Inokuchi, Kikuno Ichikawa, Haruo Ozaki. .... 35-39

## Proceeding

The 367th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

(February 25, 2023). .... 40-48

## 第 88 回東京女子医科大学学会総会

日 時：2022 年 9 月 24 日（土曜日）13：10～15：40

会 場：オンライン会場〔Zoom ウェビナー〕

※総会は書面開催として行いました。

挨 拶

（会長）丸 義朗

### 公開シンポジウム「災害に強い医科大学を歩む」

座長（東京女子医科大学医学部救急医学教授・基幹分野長/救命救急センター長）矢口有乃

1. 災害に対する本院の取り組み～病院防災・減災対策支援室発足からの歩み～  
（東京女子医科大学医学部救急医学臨床教授/病院防災・減災対策支援室副室長）武田宗和
2. 地域災害拠点中核施設としての足立医療センターの備え  
（東京女子医科大学足立医療センター救急医療科教授）庄古知久
3. 災害医療に対する八千代医療センターの取り組み  
（東京女子医科大学八千代医療センター集中治療科科長）落合香苗
4. 災害医療に対する学校法人としての取り組み（東京女子医科大学医療安全・危機管理部部長）加藤多津子
5. 災害医療に対する東京都の取り組みの現況と今後  
（東京都福祉保健局医療政策部事業推進担当課長）石川重正
6. 災害医療に対する東京都医師会の取り組みと今後（東京都医師会救急・災害担当理事）新井 悟
7. CBRNE テロの基礎知識  
（東京都災害医療コーディネーター，杏林大学医学部救急医学主任教授/高度救命救急センター長）山口芳裕

## 序 文

（東京女子医科大学医学部救急医学教授・基幹分野長）矢口有乃

第 88 回東京女子医科大学学会総会公開シンポジウムは、「災害に強い医科大学を歩む」というテーマで、「災害」について開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大下でもあり、今回も Web 開催にて行うことになりました。本学法人として、また附属 3 病院各々の災害に対する取り組みと課題を教職員が共有し、さらに東京都、東京都医師会の取り組みも習知することで、予期せぬ災害というものに直ちに対応できる、さらには災害に強い医科大学を構築していく目的のシンポジウムといたしました。法人としては、加藤多津子先生（医療安全・危機管理部部長）から「災害医療に対する学校法人とし

ての取り組み」として法人全体の総合防災訓練の実施状況や課題をお話いただきました。本院からは、武田宗和先生（病院防災・減災対策支援室副室長）から、病院防災・減災対策支援室発足からの活動内容と今後の課題について、足立医療センターからは、庄古知久先生（救急医療科教授）に地域災害拠点中核施設としての足立医療センターの使命や配備について、八千代医療センターからは、落合香苗先生（集中治療科科長）から千葉県東葛南部医療圏の地域災害拠点病院・DMAT 指定医療機関での役割と取り組みについて発表していただきました。さらに大規模災害発生時における東京都の災害医療

## 第 367 回東京女子医科大学学会例会

### 第 1 部 令和 3 年度研究奨励賞受賞者研究発表

日時 2023 年 2 月 25 日 (土) 9:00~3 月 3 日 (金) 16:00

会場 オンデマンド配信

#### 山川寿子研究奨励賞 (第 34 回)

1. リソソーム関連分子 Folliculin による造血幹細胞制御機構の解明  
(解剖学 (顕微解剖学・形態形成学分野) 助教) 望月 牧子

#### 佐竹高子研究奨励賞 (第 30 回)

1. 二次性進行型多発性硬化症の早期診断における歩行機能検査の有用性について  
(脳神経内科学分野 助教) 池口亮太郎
2. メチオニン代謝回路の変動による長寿命とその分子機序  
(衛生学公衆衛生学 (環境・産業医学分野) 講師) 吉崎 (廣田) 恵子

#### 中山恒明研究奨励賞 (第 8 回)

1. 脂肪幹細胞シートを用いた端側神経縫合における顔面神経再生研究  
(形成外科学 講師) 新美陽介

### 第 2 部 令和 4 年度研究奨励賞授与式

日時 2023 年 2 月 25 日 (土) 9:00~9:45

会場 彌生記念教育棟 1 階 彌生先生座像前

#### 山川寿子研究奨励賞 (第 35 回)

1. Duchenne 型筋ジストロフィーモデル動物に対する新生仔細胞移植の検討  
(小児科学分野 後期研修医) 木原祐希

#### 佐竹高子研究奨励賞 (第 31 回)

1. PPAR $\alpha$  修飾薬による新たな脳梗塞治療  
(脳神経内科学分野 助教) 星野岳郎

#### 中山恒明研究奨励賞 (第 9 回)

1. 超音波 B モード画像人工知能解析と新型超音波エラストグラフィを用いた食道静脈瘤出血の予測  
(足立医療センター検査科光学診療部 准教授) 古市好宏

### 第 3 部 第 17 回研修医症例報告会

日時 2023 年 2 月 25 日 (土) 13:20~15:45

会場 オンライン会場 [Zoom ミーティング]

開会の辞 司会 (幹事) 清水優子  
挨拶 (会長) 丸 義朗  
開始の挨拶 (本院卒後臨床研修センター長) 西村勝治  
口演 5 分, 質疑応答 3 分/○発表者, ◎指導医

Block 1 内科系症例 13:30~14:10

座長 (八千代医療センター消化器内科) 杉山晴俊

1. 糖尿病による二次性高中性脂肪血症を原因とする急性膵炎を発症した1例  
(八千代医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 消化器内科,<sup>3</sup> 糖尿病・内分泌代謝内科) ○乾 滯<sup>1</sup>・  
吉本芽生<sup>3</sup>・杉山晴俊<sup>2</sup>・◎西野隆義<sup>2</sup>・新井誠人<sup>2</sup>
2. 胎児発育不全を契機に発見されたリンパ球性下垂体炎の1例  
(八千代医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 糖尿病・内分泌代謝内科,<sup>3</sup> 母体胎児科,<sup>4</sup> 消化器内科)  
○乾 裕貴<sup>1</sup>・◎吉本芽生<sup>2</sup>・小川正樹<sup>3</sup>・西野隆義<sup>4</sup>
3. 重症筋無力症クラーゼに対しエフガルチギモドアルファ(エフガルチギモド)が有効であった1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 内科) ○山口日陽子<sup>1</sup>・  
増子智英<sup>1</sup>・◎細田麻奈<sup>2</sup>・マーシャル祥子<sup>2</sup>・岡部ゆう子<sup>2</sup>・  
木村綾子<sup>2</sup>・大野秀樹<sup>2</sup>・西村芳子<sup>2</sup>・◎柴田興一<sup>2</sup>・小川哲也<sup>2</sup>
4. 検査所見に乏しかったが腎生検で活動性が高いと判断された顕微鏡的多発血管炎の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 内科) ○川島優和<sup>1</sup>・  
◎堀本 藍<sup>2</sup>・大前清嗣<sup>2</sup>・小川哲也<sup>2</sup>
5. 重症アルコール性肝炎と重症急性膵炎が合併した症例に対して、ステロイドパルス療法が著効した1例  
(八千代医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 消化器内科) ○畑山靖樹<sup>1</sup>・  
村上大輔<sup>2</sup>・杉山晴俊<sup>2</sup>・西野隆義<sup>2</sup>・◎新井誠人<sup>2</sup>

## Block 2 外科系症例 14:10~14:50

座長(本院消化器・一般外科) 本田五郎

6. 妊娠26週に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行し、術当日に塩酸リトドリンによる  
術後急性肺水腫を発症した1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 外科) ○三枝拓未<sup>1</sup>・  
◎久原浩太郎<sup>2</sup>・河野鉄平<sup>2</sup>・碓井健文<sup>2</sup>・西口遼平<sup>2</sup>・  
浅香普一<sup>2</sup>・横溝 肇<sup>2</sup>・島川 武<sup>2</sup>・大東誠司<sup>2</sup>・塩澤俊一<sup>2</sup>
7. 多枝冠動脈塞栓による急性心筋梗塞を初発症状として診断に至った真性多血症の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> リハビリテーション科) ○渡邊真由<sup>1</sup>・◎佐藤恭子<sup>2</sup>
8. 脳室周囲異所性灰白質(PHN)と皮質異形成(FCD)を伴う難治性てんかんに  
SEEGを経て焦点切除を行った1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 脳神経外科) ○張 祐樹<sup>1</sup>・◎久保田有一<sup>2</sup>
9. 左大腿部血腫感染緊急手術に4因子プロトロンビン複合体を使用した1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 麻酔科) ○石川彩椰人<sup>1</sup>・  
◎小高光晴<sup>2</sup>・市川順子<sup>2</sup>・岡村圭子<sup>2</sup>・小森万希子<sup>2</sup>
10. 頭部外傷を伴う腕頭動脈損傷に対して降圧治療後に人工血管置換術を施行した1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 救急医療科,<sup>3</sup> 心臓血管外科) ○藤田朋宏<sup>1</sup>・  
◎小島光暁<sup>2</sup>・谷澤 秀<sup>2</sup>・中本礼良<sup>2</sup>・庄古知久<sup>2</sup>・古川博史<sup>3</sup>・上部一彦<sup>3</sup>

<休憩 5分>

## Block 3 小児科系その他 14:55~15:35

座長(足立医療センター小児科) 松岡尚史

11. 憤怒けいれんが疑われていた気管軟化症の1例  
(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 小児科) ○若杉 翔<sup>1</sup>・  
◎鈴木 悠<sup>2</sup>・高橋侑利<sup>2</sup>・桐野沙希子<sup>2</sup>・大谷智子<sup>2</sup>

12. 学童期からの夜間異常行動に長時間脳波を施行した1例

(本院<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 小児科) ○吉田華葉<sup>1</sup>・◎中務秀嗣<sup>2</sup>・大宮亜希子<sup>2</sup>・道下麻未<sup>2</sup>・岸 崇之<sup>2</sup>・竹下暁子<sup>2</sup>・伊藤 進<sup>2</sup>・永田 智<sup>2</sup>

13. 乳房パジェット病を契機に発見された乳癌に対して迅速に治療介入が行われた1例

(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 皮膚科,<sup>3</sup> 乳腺診療部,<sup>4</sup> 病理診断科) ○金納慶蔵<sup>1</sup>・宮本樹里亜<sup>2</sup>・梅垣知子<sup>2</sup>・◎石崎純子<sup>2</sup>・田中 勝<sup>2</sup>・平野 明<sup>3</sup>・黒田 一<sup>4</sup>

14. 骨折後に脂肪塞栓症を発症した1例

(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 救急医療科) ○町田実斉<sup>1</sup>・◎庄古知久<sup>2</sup>

15. 新型コロナウイルス感染症流行期の重症肺炎診療においてニューモシスチス肺炎を疑い

後天性免疫不全症候群発症の診断に至った1例

(足立医療センター<sup>1</sup> 卒後臨床研修センター,<sup>2</sup> 救急医療科) ○百瀬秀夫<sup>1</sup>・◎中本礼良<sup>2</sup>・庄古知久<sup>2</sup>

総 評

(八千代医療センター卒後臨床研修センター長) 高梨潤一

ベストプレゼンテーション賞発表

(本院卒後臨床研修センター長) 西村勝治

閉会の辞

司会(幹事) 小森万希子

〔令和3年度山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表〕

〔令和3年度佐竹高子研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. リソソーム関連分子 Folliculin による造血幹細胞制御機構の解明

(解剖学(顕微解剖学・形態形成学分野))

望月牧子・石津綾子

がん抑制因子の一つである Folliculin (FLCN) 遺伝子は細胞内リソソーム膜に存在し、リソソーム活性の制御を始め、細胞内小器官の動態を調整し、細胞内代謝制御を行っている。造血幹細胞(HSC)は自己複製と多分化能を持ち合わせた血液の幹細胞であり、発生期は増殖するものの成人期には細胞分裂が静止期に留まり、その代謝は生涯においてダイナミックに変化する。したがってHSCにおける代謝制御機構を理解することは造血幹細胞とその疾患メカニズムを理解するために重要である。我々は造血特異的に FLCN を欠損したマウス (Flcn<sup>fl/fl</sup>; Vav1-Cre) を用いて造血発生における FLCN の機能を検討した。胎生 13.5 日の Flcn<sup>fl/fl</sup>; Vav1-Cre マウス胎児肝において HSC 数およびそのミトコンドリア膜電位に変化はみられなかった。これまでの知見から Flcn<sup>fl/fl</sup>; Vav1-Cre マウスは 5 週程度で致死であることが明らかになっていることから、今後は生後 2, 3 週程度の Flcn<sup>fl/fl</sup>; Vav1-Cre マウスにおける HSC の表現系について検討を行いたい。また、タモキシフェン投与によって誘導的に造血特異的に FLCN を欠損できる Flcn<sup>fl/fl</sup>; eR1-Cre-ERT2 マウスの作製を行い、成体 HSC における FLCN の機能についても検討を行っていきたい。

1. 二次性進行型多発性硬化症の早期診断における歩行機能検査の有用性について

(脳神経内科学)

池口亮太郎

脳神経内科では、多岐にわたる疾患の診療を行っている。我々はその中でも、多発性硬化症(multiple sclerosis: MS)、視神経脊髄炎、重症筋無力症などの神経免疫疾患の診療・研究に注力してきた。これまでに「中枢神経脱髄性疾患の病態における接着因子の研究」や「視神経脊髄炎の病態における傍腫瘍性機序の研究」、「中枢神経脱髄性疾患と脳腫瘍の鑑別に有用な各種検査に関する研究」などの研究を行い、学術誌にも報告してきた。MSは代表的な中枢神経脱髄性疾患であり、多くは改善と寛解を繰り返す再発寛解型である。再発寛解型 MS の約半数が、再発の有無に関わらず進行性の経過を示す二次性進行型 MS (secondary progressive MS: SPMS) に移行する。2020 年より SPMS で進行抑制効果を示す治療薬が認可されたが、SPMS の病態や治療効果発現機序は明らかでないのが現状である。また SPMS には診断マーカーがないことが問題となっている。今回、我々は SPMS の早期診断マーカーとして歩行機能に着目した。少数の先行研究において、歩行機能低下が SPMS の診断マーカーとなりうることを示されている。我々は、経時的に歩行機能を解析することで SPMS への移行をより早期に診断できるという仮説を立てた。歩行機能解析は、短時間かつ簡易に歩行機能を解析できる高感度センサーを用いて定期的に行う。本研究は、SPMS の早期診断における歩行機能解析の有用性について重要な提案ができると確信している。